

鳩山町「食」コミュニティ会議プロジェクト 「いっしょに食べよう！鳩山100人で囲む食卓」 コミュニティの場づくりへ

食の力が秘める可能性

昨年6月から、「食」を通じたコミュニティの場を地域の中につけていくことを目標として、鳩山町「食」コミュニティプロジェクトが始まりました。プロジェクトの一環として2月16日にふれあいセンターで行われた「いっしょに食べよう！鳩山100人で囲む食卓」。当日の様子と、食の力によるコミュニティの場づくりの可能性をレポートします。



100人以上が交流しながらの食事会

みんなで囲んだメニュー

女子栄養大学のカフェテリアを運営している「松柏軒」のメニュー

今回の特別メニューは、鱈や鶏肉、茄子、里芋、筍、葉の花、大根、椎茸、蚕豆、ひじき入り卵焼きなど、栄養バランスの整った、本格的なおかず。(1食分649kcal、たんぱく質33.7g、塩分3.5g)



鳩山産のお米で炊いたごはん。おかわりする人が何人も。

鳩山産の野菜と黒大豆を使った「鳩豆呉汁」。レシピを知りたいとの声もあちこちで。

参加者の声

◆大勢で食べる楽しさを実感

自分は一人住まいのため、やはり大勢で食べるのがいかに大切で楽しいかを実感しました。また、長寿社会に入っているため、自分も真剣に取り組んでいかなければいけないと思いました。(70歳代女性)

◆食コミ活動の良さが分かった

食べることは心をほぐしますね。食コミ活動を知らない人も多いと思うので、友だちにも話したいです。(60歳代女性)

地域のコミュニティに接し、地域の取り組みを知ることができたのが最大の収穫でした。またチャンスがあれば参加したいです。(60代男性)



たくさんの笑顔を生む、食を通じたコミュニティの場へ



長寿社会のまちづくりについて語る秋山特任教授

イベントの最後を締めくくったのは、東京大学高齢社会総合研究機構の秋山弘子特任教授による特別講演。秋山先生は「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」と題し、今後の超高齢化社会では、昔と違い元気な高齢者が増えることに言及。そして参加者に、セカンドライフをどう迎えるかを真剣に考える必要があるとともに、長寿社会に対応するまちづくりのためには、役場、大学、事業者、町民などが、共に「鳩山町を

「こんなに大勢で食事をするなんて初めてだね」2月16日、ふれあいセンター内で行われたのは、食コミが企画した「いっしょに食べよう！鳩山100人で囲む食卓」という食事会と座談会。イベントは、食を通じた集まりの重要性や楽しさを知ってもらおうと同時に、町内で行われている食に関する活動を知り、その活動の環を広げていく目的で、2部構成で行われました。

食事会・町内の先行事例で食の力を実感

第1部では、女子栄養大学のカフェテリアを運営している松柏軒のメニューに、町の特産品である黒大豆と鳩山産野菜を使った「鳩豆呉汁」、鳩山産のお米で炊いたごはんが提供されました。おいしい食事を囲んで、参加者の心も次第にほぐれたようでした。続く第2部では、始めに町内での食を通じたコミュニティづくりの先行事例として、ふくしプラザ、町社会福祉協議会、大豆戸地区の活動が紹介されました。

参加者全員が食コミ宣言を

そして、イベントは活動への気運を高める座談会へ突入。



参加者の「私の食コミ宣言！」の数々

「こうしたい」と思い描き、協力し合うことが重要だとし、その核を担うのが町民の方々であることを、激励の言葉とともに訴えました。

食の力でコミュニティの場づくりを

町内では、食の魅力や重要性を再認識する取り組みや、食を通じたさまざまなコミュニティづくりが行われています。しかし、それらと食コミ活動を複合的につなげ、町全体の取り組みとするには、まだ十分な状態とはなっていない。

今回のプロジェクトやイベントは、新たなコミュニティづくりの手法として、専門家も注目しています。秋山先生

は「美味しい物を食べて楽しくならない人はいない。日々の生活の中にコミュニティを形成し、それが健康づくりにつながればいい。今回のイベントは、そのための第一歩になった」と語っていました。

さらに、(独)科学技術振興機構の長島洋介研究員も「この会でのつながりが、日々の生活にもつながっていく可能性がある。今後は多くの世代も含めて、町全体の動きとなれば」と語り、プロジェクトは人と人とのつながりに発展すると期待されています。

そして両者が共に口にしたのは、プロジェクトへの町民の関わり方の強さ。コミュニティの場づくりへ、多くの方の力でその第一歩が形となりました。

鳩山町「食」コミュニティ会議

「食」を通じた社会参加の場の創出、組織間でのネットワーク構築を目標に、平成25年6月に発足。町保健センターを事務局とし、町民、女子栄養大学、東京都健康長寿医療センター研究所による21人で構成。(※本文中では「食コミ」といいます。)

構成員は「食コミリーダー」となり、詳細な活動内容を検討し、実施主体となる。さらに、地域に根付いた活動を行い、各地区でネットワーク構築のための核となる役割を持つ。

あらゆる世代が食を通じて集まれる場所を目指し、地域のコミュニケーションの場として活用することが期待されている。



食コミのシンボルマーク